令和６年度　北部教育事務所

学校応援ＢＯＯＫ

１「主体的・対話的で深い学びにスポットライト！」
～北部地区授業実践事例集（小学校編）～

２「児童生徒支援の効果的な取組について」
～不登校・不登校傾向の児童生徒への学習支援の話合い等より～

３「いかしてみよう！！研修会・研究会資料」
～埼玉県及び全国学力・学習状況調査「分析・活用・実践」研修会～
～北部地区授業力向上研究会（音楽・特別活動　編）～

令和７年３月

令和６年度　北部教育事務所「学校応援ＢＯＯＫ」

― 目 次 ―

１　「主体的・対話的で深い学びにスポットライト！」
～北部地区授業実践事例集（小学校編）～

ページ	教科等	ページ	教科等
P.1	国語 深谷市立岡部西小学校 上里町立神保原小学校	P.2	社会 本庄市立北泉小学校 深谷市立上柴西小学校
P.3	算数 皆野町立皆野小学校 熊谷市立成田星宮小学校	P.4	理科 本庄市立中央小学校 小鹿野町立両神小学校
P.5	生活 本庄市立仁手小学校 横瀬町立横瀬小学校	P.6	音楽 秩父市立西小学校 深谷市立常盤小学校
P.7	図画工作 美里町立松久小学校 上里町立上里東小学校	P.8	家庭 秩父市立南小学校 秩父市立影森小学校
P.9	体育 秩父市立南小学校 神川町立丹荘小学校	P.10	外国語・外国語活動 深谷市立上柴西小学校 熊谷市立男沼小学校
P.11	道徳 上里町立神保原小学校 美里町立松久小学校	P.12	総合 神川町立青柳小学校 熊谷市立石原小学校
P.13	特別支援 本庄市立金屋小学校 熊谷市立熊谷西小学校	P.14	特別活動 長瀞町立長瀞第一小学校 寄居町立寄居小学校

２　「児童生徒支援の効果的な取組について」
～不登校・不登校傾向の児童生徒への学習支援の話合い等より～

ページ	内　容
P.15 ～ P.18	一人一人の社会的自立に向けた児童生徒支援ガイドブック ～総合的な長期欠席・不登校対策～ 【北部教育事務所管内　実践事例紹介】

３　「いかしてみよう！！研修会・研究会資料」

～埼玉県及び全国学力・学習状況調査「分析・活用・実践」研修会～

ページ	内　容
P.19	本年度実施概要・本資料の活用について
P.20 ～ P.22	埼玉県学力・学習状況調査の「分析・活用・実践」ポイント
P.23 ～ P.25	全国学力・学習状況調査（中学校・数学）の「分析・活用・実践」ポイント
P.26 ～ P.28	全国学力・学習状況調査（小中学校・国語）の「分析・活用・実践」ポイント

～北部地区授業力向上研究会～

ページ	教　科	授業提案者
P.29 ～ P.35	【中学校】特別活動	熊谷市立中条中学校 大平 悠太　教諭
P.36 ～ P.40	【中学校】音楽	上里町立上里中学校 浅岡 勇輝　教諭

©埼玉県マスコット「コバトン」「さいたまっち」

1「主体的・対話的で深い学びにスポットライト!」
～北部地区授業実践事例集（小学校編）～

P.1 ～ P.14

©埼玉県マスコット「コバトン」「さいたまっち」

【小学校】国語

実践校【上里町立神保原小学校】【深谷市立岡部西小学校】

対話的な学び　視点の焦点化

【教師の働きかけ】

「やなせたかし―アンパンマンの勇気―」という伝記で、叙述に基づいて一人一人が読みを深める場面において、教師は、読みの視点が共通する児童で班を再編制し、児童の考えを共有させました。その際、『元の班に戻った際に説明する』という目的意識をもった話合いになるようにして、様々な考えを交流させていました。

【児童の変容】

児童はまず、同じ視点で話し合うことで、個々の考えを広げ、深めることができました。さらに、再度元の班に戻って意見交流を行うことで、読みが深まったことを実感する児童の姿が見られました。

主体的な学び　学習内容の意識化

【教師の働きかけ】

「一番心に残ったこと」について児童が感想をもつ場面において、教師は児童が話を整理できるように挿絵を用いて物語の構造を見える化しました。そして、児童の初発の感想を基に児童とともに単元の計画を立て、ゴールを設定することで、児童が学習の見通しを立てることができました。

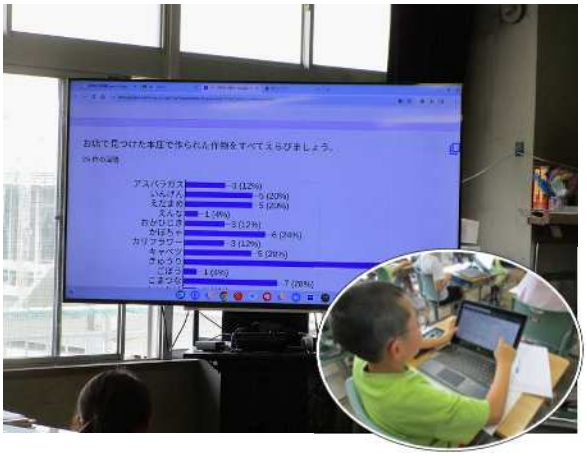
【児童の変容】

『ないた赤おに』というタイトルから物語を想像することから始まり、初発の感想を交流した後、授業の終末には、児童が単元全体について見通しをもつことにつながりました。次の学習を楽しみにして、主体的に学ぼうとする児童の姿が見られました。

【小学校】社会

実践校【本庄市立北泉小学校】【深谷市立上柴西小学校】

主体的な学び　資料提示の工夫



【教師の働きかけ】

市内で作られている農作物について調べる場面において、教師は、児童が調べてきたものを１人１台端末を利活用して集計、グラフ化（可視化）しました。個々で調べた事実を総合して、客観的なデータ資料としました。

グラフを示す際には、児童に予想させながら段階的に示すなど、関心を高めながら具体的な事実を捉えさせました。

【児童の変容】

個人で調べたことを基に、市内で何が多く作られているのかを考えながら資料を読み取る児童の姿が見られました。また、読み取った事実から、「なぜそうなのか？」という問いを自ら見いだしている児童も見られました。

深い学び　「見方・考え方」を働かせるための支援

【教師の働きかけ】

江戸幕府の政策（大名配置）について考える場面において、教師は、まず児童に「自分だったらどう配置するか」と投げかけ、１人１台端末を利活用して考えさせました。

理由や根拠を明確にしてグループや全体で話し合った後、実際の配置を確認させ、自分たちの考えと比較しながら事象を捉えられるようにしました。

【児童の変容】

配置を考える際には、「空間」「時間」「相互関係」等の視点から、理由や根拠を明確にしている児童の姿が見られました。また、自分たちの考えと比較して事象を捉えることで、その意図や意義について深く考える児童の姿も見られました。

【小学校】算数

実践校【皆野町立皆野小学校】【熊谷市立成田星宮小学校】

対話的な学び　　個人での解決

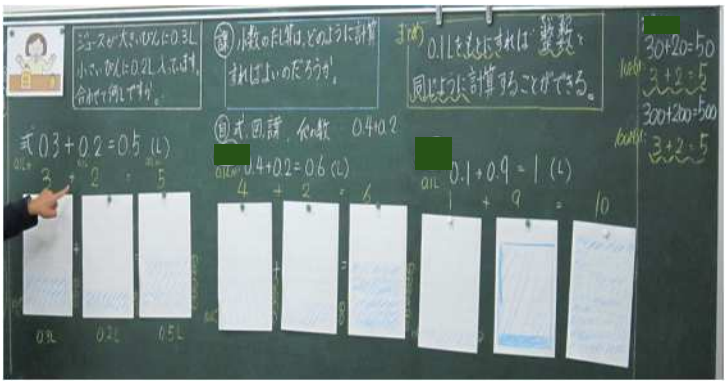
【教師の働きかけ】

「小数のたし算（0.3+0.2）の計算方法」の『導入の場面』において、教師は、具体物を用いて児童との対話を繰り返しながら、日常生活における実際の場面を想起させていました。また、『授業終盤』には、0.1Lをもとにして整数と同じように計算した答えが、本当であるかを見せて、価値付けていました。

【児童の変容】

自力解決の際に、手が止まっていた児童も、実際の場面を想起させて考えることで、図に表して答えを求めることができました。また、自分たちの出した「0.5L」を具体物で確かめた時には、「できた」喜びに喚起する児童の姿が見られました。

深い学び　　統合的・発展的な思考



【教師の働きかけ】

「小数のたし算（0.3+0.2）の計算方法」の『見通し場面』において、教師は児童から「式、図、言葉」以外にも「他の数」という考え方も引き出し、適用範囲を広げて自力解決をさせていました。また『授業終盤』には、見いだした方法を、既習の十や百を単位とした数の加法と関連付けて考えさせていました。

【児童の変容】

0.3+0.2の計算方法を、式、図、言葉などを用いながら考えるだけでなく、その方法は『他の数』でも使えるのか考える児童の姿が見られました。児童の中には、0.1+0.9＝1といった、特別な場合を考える児童の姿も見られました。

【小学校】理科

実践校【本庄市立中央小学校】【小鹿野町立両神小学校】

対話的な学び　話合いの焦点化

【教師の働きかけ】

　てこがつり合うきまりを実験結果から考察する場面において、教師は、実験結果や考察に迫るヒントカードを１人１台端末にて共有しました。また、再実験できる環境を整えることで、探究しながら問題解決できる展開を設定していました。児童に問題解決するための学習形態を選択させる場面も位置付けられていました。

【児童の変容】

　「表やグラフに整理する」「数を使って考える」「筋道の通った考え方をする」「きまりを見つける」の視点をもちながら、根拠のある考察をしようとする児童の姿が見られました。

深い学び　見方・考え方を働かせるための支援

【教師の働きかけ】

　実験方法の検討の場面において、教師は、比較させたい部分がどこなのかについて端的な言葉で児童に尋ね、確認することで理科的な見方を働かせるように促していました。

　また、実験の結果から考察する場面においては、実験の結果を解釈し、根拠を明確にして表現することを繰り返し指導していました。

【児童の変容】

　支点からの距離という量的な見方で実験の結果を比較し、てこをどのように使ったら小さな力でおもりを持ち上げることができるのかを見いだし、根拠をあげて自身の考えを伝える児童の姿が見られました。

【小学校】生活

実践校【本庄市立仁手小学校】【横瀬町立横瀬小学校】

対話的な学び　交流機会の設定

【教師の働きかけ】

おもちゃづくりの活動を振り返る場面において、教師は、1.2年生で思いや願いを伝え合う場を設定しました。発表メモや活動時の写真を掲示して振り返りを支援し、発表を聞いての気付きを伝えさせました。本時の振り返りでは、1.2年生が互いへの思いを聞き合う時間を取り、交流そのものについての気付きを促しました。

【児童の変容】

「おもちゃの中にどんぐりを入れる」という工夫を話した1年生が、2年生から「そのアイディアはすごい」と褒められて、ガッツポーズをしていました。交流の振り返りでは、2年生と協力できた喜びや、1年生が成長したことの喜びを表現する児童の姿が見られました。

深い学び　学習形態の工夫

【教師の働きかけ】

2年生に楽しんでもらえるような、木の実や木の葉等を活用したおもちゃを作る場面において、教師は、個人で作ったものを生かしてグループで試す場を設定していました。個々の気付きや発見を友達と交流し、伝え合う活動を通して、それぞれの気付きを関連付けようと学習形態を工夫していました。

【児童の変容】

友達の気付きや発見に触れることで、自身の気付きを確かにしたり、違った視点から気付きを捉え直したりすることができ、木の実や木の葉の特徴を生かしたり、遊び方を工夫したりするなど、さらにおもちゃを工夫する児童の姿が見られました。

【小学校】音楽

実践校【秩父市立西小学校】【深谷市立常盤小学校】

主体的な学び　　学習の自覚化

【教師の働きかけ】

合奏に向け、担当する楽器で曲想にふさわしい演奏をするための工夫を考えさせる場面において、教師は、曲を繰り返し聴かせながら、強弱や音の重なりなどに着目させ、パートごとの違いを感じ取らせながら、児童に担当する楽器をどのように演奏するかを楽譜に書き込む活動を設定していました。

【児童の変容】

曲を聴き、前時に捉えた旋律の違いや、楽器の音色、強弱について改めて確認することで、担当する楽器・パートにおいて、「どのような演奏をしたらよいか」、感じ取ったことを生かして主体的に工夫しようとする児童の姿が見られました。

対話的な学び　　思考の深化

【教師の働きかけ】

音楽づくりの学習で、グループでリズム伴奏をつくる場面において、教師は、児童に１人１台端末を利活用させ、個別に考えたリズムの特徴や音の重ね方をグループで共有し、話合い活動ができるようにしていました。

自分たちで考えた楽譜を見たり、録音機能を用いて演奏を録音して聴いたりすることで、視覚と聴覚を駆使し、考えを深められるようにしました。

【児童の変容】

声の音色やリズムの特徴、音の重ね方について、他者の感じたことや思考したことを、必要に応じて音で確認したり、実際に声に出して歌ったりするなど試行錯誤を繰り返し、グループ内で考えを深め合う児童の姿が見られました。

【小学校】図画工作

実践校【美里町立松久小学校】【上里町立上里東小学校】

対話的な学び　考えを広げるための支援

【教師の働きかけ】

　スタンプ遊びを楽しむ造形遊びの場面において、教師は児童が造形的な活動や表したいことを思い付くなど発想を広げたり、どのように活動したり表したりするかを考えるなどの構想をしやすくするため、大きな模造紙を用意し、友達と一緒に活動する場面を設定しました。

【児童の変容】

　材料の形やスタンプする色の特徴を生かし、友人と関わりながら偶然できた形を何かに見立てる児童の姿や、見立てた形から物語を思い付き活動する児童の姿が見られました。

深い学び　支援方法の工夫

【教師の働きかけ】

　身近な自然が作り出す形や色からイメージを膨らませる場面において、教師は、スタンピングやスパッタリング、フロッタージュやスクラッチなど様々な表現方法があることを伝え、児童が表したいことに対して最も適した表現方法を選択できるようにしました。

【児童の変容】

　モダンテクニックの様々な表現方法を試すことで、形や色などの感じ、造形的な特徴やそれらの組み合わせから、自分のイメージをもちながら表現活動に取り組む児童の姿が見られました。

【小学校】家庭

実践校【秩父市立南小学校】【秩父市立影森小学校】

対話的な学び　効果的な場面の設定

【教師の働きかけ】

「物やお金の使い方」の買い物の仕方を考える場面において、教師は、児童の生活に身近な３種類のノートを提示しました。「どれを選ぶか」「理由は何か」を個人で考えさせた後にグループで話し合わせました。ノートのデザインや冊数、値段等の条件を変えることにより、実際の買い物を想定し、話合いが深まるようにしました。

【児童の変容】

話合いの前は、デザインや冊数の多さ、値段の安さだけを見て選択していた児童もいました。しかし、グループで交流する中で、「今自分に必要な数」や「買ったあとの使い道」に気付き、買う前に本当に必要かどうかを考える児童の姿が見られました。

深い学び　日常との関連

【教師の働きかけ】

「食べて元気！ご飯とみそ汁」の『課題設定』の場面において、教師は、「おいしいご飯とみそ汁のヒミツ」について、児童から出された意見や考えを家庭科における「健康・快適・安全」等の視点で分類しました。児童の日常の分からないことや知りたいことから問題を見いださせ、これからの学習における課題を明確にし、児童と共有していました。

【児童の変容】

児童から出た意見や考えは多様でしたが、教師が分類していく中で学びたいことの共通点やいろいろな見方があることに気付くことができました。今後の学習で何を学んでいきたいかを様々な視点で捉える児童の姿が見られました。

【小学校】体育

実践校【秩父市立南小学校】【神川町立丹荘小学校】

主体的な学び　主運動へのつながり

【教師の働きかけ】

感覚つくりの運動の場面において、教師は、主運動につながる基礎的・基本的な運動（みんなができそうな運動）について、友達と関わらせ、目的意識をもって楽しみながら取り組ませていました。その際、自分の力に合った動きを身につけるための教具を工夫することで児童を夢中にさせ、「できた」と達成感を味わわせていました。

【児童の変容】

「手はパーにする」「あごをあげて前を見る」等を意識しながら、友達の持っているバーに足を少しでも当てることで「できた」を実感し、「もっとできるようになりたい」という意欲が高まり、主体的に学習に取り組もうとする児童の姿が見られました。

深い学び　既習事項の活用

【教師の働きかけ】

単元後半のグループで学び合う場面において、教師は、既習事項をもとに、グループ内で撮影した一人一人の動画を注意深く観察させることで、「どうすればより上手にできるか」を考えさせていました。その際、技の局面ごとのポイントを児童同士で考え、作成した学習資料を活用させることで、課題解決に向けて探究的な学習につなげていました。

【児童の変容】

既習事項をもとに、児童たち自身が学びを蓄積させた手作りの学習資料を活用することで、「踏み切り」「着手」「空中姿勢」「着地」等、着目するポイントを明確にもちながら主体的に学習に取り組もうとする児童の姿が見られました。

【小学校】外国語活動・外国語

実践校【熊谷市立男沼小学校】【深谷市立上柴西小学校】

深い学び　実践力の涵養

【教師の働きかけ】

「家族が喜ぶランチメニューを考えて注文する」場面において、教師は、家族の誰に、何を注文するかをイメージさせながら、言語活動を行わせていました。また、教師が中間指導を適切に入れることで、既習事項を想起させたり、別の表現に言い換えさせたりするなどの学習を通して児童のコミュニケーション能力を高めていました。

【児童の変容】

適切な場面設定の中で、コミュニケーションを行う目的を意識しながら自分が使う英語を吟味し、コミュニケーションを図る児童の姿が見られました。

主体的な学び　ねらいと課題の設定

【教師の働きかけ】

課題提示の場面において、教師は、既習内容を踏まえた具体的な発表モデルを示して、児童が本時の目標を想起できるようにしていました。また、単元終末の言語活動を再確認し、本時の学習の価値付けを行うとともに、児童に単元のゴールまでの見通しをもたせていました。

【児童の変容】

本時の目標に対して、課題解決の必要感をもって取り組むとともに、単元のゴールまでの見通しをもって主体的に課題解決を図ろうとする児童の姿が見られました。

【小学校】特別の教科　道徳

実践校【上里町立神保原小学校】【美里町立松久小学校】

主体的な学び　適切な課題設定

【教師の働きかけ】

主題に対して、児童の興味関心・問題意識を高めるため、導入の場面において、生活の様子が分かる画像や、生活の中での児童のつぶやきを提示しました。児童にとって曖昧な内容を問うことで、「みんなと一緒に考えてみたい」という思いを引き出し、ねらいとする道徳的価値へ方向付けていました。

【児童の変容】

画像を通して、自分たちの普段の様子を振り返ることや、教師からの意図的な問いかけについて考えることで、主題に対しての自分たちの課題に気付き、どうしたらよいか主体的に考える児童の姿が見られました。

深い学び　活動の工夫

【教師の働きかけ】

児童相互の考えを深める場面において、「多面的・多角的」に考えることができるように、一斉による学習やペアでの対話等を意図的に取り入れました。児童の実態を踏まえて学習形態や活動を工夫することで、教材を通して登場人物と自分を重ねながら学ぶことができるように促していました。

【児童の変容】

児童はペアでの対話により、じっくりと気持ちを表現しながら語り合っていました。これまで気付かなかった見方・考え方に触れることで、自己の生き方について考えを深めていました。新たな気付きや視野の広がりを実感する児童の姿が見られました。

【小学校】総合的な学習の時間

実践校【熊谷市立石原小学校】【神川町立青柳小学校】

主体的な学び　　対象に迫る支援

【教師の働きかけ】

導入の場面において教師は、前時までの児童の「魅力を伝えたい」という思いから、「どうやって伝えるか？」という課題を設定しました。パンフレットの情報を整理・分析して、情報の伝え方や作成者の意図を考えさせ、魅力の再発見や、次はこんな活動をしていきたいという新たな課題意識につなげました。

【児童の変容】

パンフレットの伝え方と作成者の意図を関連付けて考え、「うどんのおいしさに感謝したいっていう言葉、いいよね」「写真の人が笑顔だから、楽しさが伝わると思う」など、自分が調べたことをどう伝えていきたいか、どんな活動が必要かを具体的にイメージし、次の活動への意欲を高める児童の姿が見られました。

対話的な学び　　教材の工夫

【教師の働きかけ】

何を伝えたいかを考える場面で、教師は誰に伝えるかを考えさせ、伝えたい相手ごとのグループで話し合わせました。ピラミッドチャートを使い、お互いの考えを整理する際には、「伝えたい理由を大切にする」ように指導し、これまでの探究での思いを大切にしながら情報を整理させていました。

【児童の変容】

一度は反対した友達の意見について、その友達が推薦する理由を掘り下げるうちに、「それならいいかも」と納得する様子や、思考ツールで意見を精選する中で二つの意見を関連付けたり組み合わせて新たな考えをつくりだしたりする児童の姿が見られました。

【小学校】特別活動

実践校【長瀞町立長瀞第一小学校】【寄居町立寄居小学校】

主体的な学び　見通しと振り返り

【教師の働きかけ】

職業について考える場面では、事前の活動でキャリアパスポートを活用したり、実態アンケートを行ったりすることで、教師は、課題意識や見通しをもたせて学習活動させていました。思考ツール（ウェビングマップ）やグループでの学び合い、個別支援を適切に行うことで、児童が課題を解決しようとする意欲を高めていました。

【児童の変容】

教師による本時のねらいに沿った言葉かけによって、自分の考えや思いをもったり、終末で事後の活動につながる振り返りを行ったりするなど、1時間を通して主体的に学ぶ児童の姿が見られました。

対話的な学び　多様性の涵養

【教師の働きかけ】

「提案理由の発表」の場面において、教師は事前に、児童が1人1台端末を使いながら自分の思いや願いを効果的に発表できるように、提案理由の練り上げと提案方法について指導支援していました。提案者の思いや願いが全児童に共有されることで、学級会の目的が明確になり、児童の発意発想をいかすことのできる学級会となるようにしていました。

【児童の変容】

提案理由を十分に理解し、話し合うことの必要感と期待感を高める児童の様子が見られました。提案理由やめあてに沿った話合いが行われることで、学級会を通して考えを深め、児童がそれぞれのよさを発揮する姿が見られました。

【小学校】特別支援教育

実践校【本庄市立金屋小学校】【熊谷市立熊谷西小学校】

主体的な学び

実態に合わせた指導

【教師の働きかけ】

無意味音節練習の場面において、教師は、語頭、語尾、語中に分け、繰り返し児童へはたらきかけ、児童がスムーズに発音できるようになってから次の練習に進むようにして児童に自信をもたせ、児童の実態に合わせてスモールステップで指導していました。

【児童の変容】

音読や会話練習を繰り返し行うことで、「が」を母音の「あいうえお」とつなげ、正しく安定した発音ができるようになり、自信をもって大きな声で発音する児童の姿が見られました。

深い学び

学ぶことの楽しさへの気付き

【教師の働きかけ】

生活単元学習のオリンピック博士になろう！（トピック単元）の場面において、教師は、導入で１人１台端末を利活用し、クイズ形式で前時の復習を促しました。また、パラリンピックの競技種目であるゴールボールの体験的な活動ができるよう、別室に構造的な学習の場を設定し、深い学びにつなげていました。

【児童の変容】

前時までに学んだ内容について、楽しみながら振り返る児童の姿が見られました。また、立ち位置やボールを転がす方向などが構造化された学習の場の中で、生き生きと活動し、体験を通して学びを深める児童の姿が見られました。

2「児童生徒支援の効果的な取組について」
～不登校・不登校傾向の児童生徒への学習支援の話合い等より～

P.15 ～ P.18

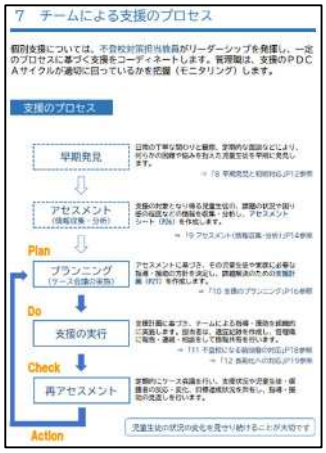
©埼玉県マスコット「コバトン」「さいたまっち」

一人一人の社会的自立に向けた児童生徒支援ガイドブック
～総合的な長期欠席・不登校対策～
【北部教育事務所管内　実践事例紹介】

本項目は、「一人一人の社会的自立に向けた児童生徒支援ガイドブック」に沿った実践事例を紹介する目的で作成しております。対策については学校環境や状況等により多岐にわたります。そのため、この実践事例紹介は、他校、他地域の実践を知る機会と位置付けていただき、今後の総合的な長期欠席・不登校対策の一助となれば幸いです。「一人一人の社会的自立に向けた児童生徒支援ガイドブック」の項目、ページと関連させて事例を紹介しております。

https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/26967/r6guidebook.pdf

○P１１『７　チーム学校による支援のプロセス』



【実践事例①】

- 共有サーバー上での不登校児童生徒情報の共有体制を構築している。*（※１）*
  →電子化された支援リスト（個人カルテ）を作成しているので教職員は誰でも閲覧でき、追記できる。

※１『具体的な流れ』

- 個人カルテを学校職員の共通理解のもとにチームで作成し、運用する。見える化、持続可能性、担任が抱え込まない仕組み。
- 生徒指導マニュアル、時間割に『支援』を入れて、別室での指導支援対応。
- オンライン支援、別室支援、スクールカウンセラーやソーシャルワーカーの活用等、多様な個々に応じた支援を提供している。

○P１２『８　早期発見と初期対応』

【実践事例②】

- 研修等で「登校している」児童生徒の状態別１～４を理解し、「学校に来ていればよい」という概念を払拭して、学校に来ていても気になる子供を状態別に分け、表に示し全体で共有している。（図①）

【実践事例③】

- 登校渋りのある子供について、全教職員が状況を把握できる環境を整えている。（写真①）

児童生徒の状態			○年○組	△年△組	◇年◇組	□年□組	●年●組	▲年▲組	◆年◆組				
本人			名前	名前	名前	名前	名前	名前	名前				
担任			名前	名前	名前	名前	名前	名前	名前				
		校内キーパーソン							☆☆教諭				
関係機関等					○○課		△△所						
登校している	状態0	学校に馴染んでいる					○		○				
	状態1	登校は辛くないが不安を感じている（元気がない）		○	○		↑	○	↑				
	状態2	心の中では登校が辛い（欠席はしていない）	○	↑	○	○	○	○	○				
	状態3	基本的には教室で過ごすが遅刻・欠席がしばしばある	↑			↑	↑						
	状態4	登校しても教室には入れず別室登校をしている	○	○		○	○						
	対応	早期発見と初期対応 アセスメント プランニング 別室の有効活用 保護者に対する支援	アセスメント	未然防止 夏季研修	アセスメント	別室有効活用 保護者支援	保護者支援 外部機関面談	アセスメント	プランニング				
登校していない	状態5	登校はできないが学校以外の施設への定期的参加はできる											
	状態6	比較的気軽に外出はできる											
	状態7	家庭内では安定しているが外出は難しい											
	状態8	部屋に閉じこもり、家族ともほとんど顔を合わせない											

継続見守り

☆年☆組　☆☆☆☆　★年★組　★★★★

↑図①　該当児童生徒の状態を一覧表で共有している。状態の変化が見られたら、変化したことがわかるように矢印で軌跡を残している。

家庭との連絡状況や登校予定時刻をボードに示している。ボードは職員室に設置している。マグネットの色は、青が病欠、緑が渋り、黄色が遅刻、赤が不明を示しており、全教職員が視覚的に把握しやすくしている。

↑写真①

○P１６『１０　支援のプランニング（ケース会議の開催）』

【実践事例④】

- ガイドブックで明記されている『状態』を明らかにした上でのケース会議等を実施している。９段階の状態で見取り、状態が上がり調子なのか、下がり調子なのかを記載している。毎週木曜日にケース会議を実施。*（※2）*
  →木曜日に実施することで木曜日放課後～金曜日に手立てを講じ、週末につなげる。

※２『具体的な流れ』

- 校内不登校対策チーム（以下「対策チーム)）を立ちあげ運用する。
- 参加者は、管理職、教育相談主任（不登校対策担当教員)、養護教諭であり、機動的に動ける組織とする。
- 毎週木曜日６時間目に「対策チーム」による協議を実施する。（授業コマに入れる）
- 担任は、ケース会議が行われる前に、ピックアップされた不登校傾向児童生徒について、シンプルな報告書（定型）を不登校対策担当教員に提出する。
- 不登校対策担当教員は、その報告書を集約し、「対策チーム」の協議資料とする。
- 「対策チーム」で報告書をもとに、当該児童生徒の状態についてガイドブックに示された９段階でとらえ、具体的な手立てを協議する。
- 「対策チーム」での協議事項は、ケース会議後に学校全体で共有し、担任や学年を中心に具体的な支援を実施する。
- 担任を中心に、児童生徒の変容等を見届けるとともに、継続的に「対策チーム」での支援策を協議する。
- 報告書は蓄積し、職員が誰でも見られるようにしておく。

○P２０『１３　別室の有効活用』

別室支援の工夫

相談室や図書室、空き教室などを活用して学習支援や相談活動を行っている学校があります。別室でも児童生徒が安心して過ごせるような工夫が必要です。

以下、工夫の一例

①別室の準備
- 別室運営の取り組みをはじめるなど段階的に運営する
- 駐在員の分担的な業務量と組みて教室の平準化を図る
- 非常に落ち着かなくなった児童生徒と接点をやしない場所に調整する
- パーテーションなどで他の児童生徒の視線をカットする

②別室の運営
- 制限をさせず見守るという姿勢を前面とする
- 接触不良を防ぎ、関係の平穏不安定なりの対応は続ける
- 学習や遊ぶ教室の利用時間を設ける
- 本人が形成した空間から一歩ずつ取り組み、できることを徐々に増やしていく
- 少しずつ、少し頑張ればできる課題に取り組んでもらう
- 他の児童生徒と比較しない

③教室復帰に向けた働きかけ
- 本人の気持ちに合わせて、別室から徐々に教室に向かえるようにする
- 教室での時間を徐々に入れ、本人の体調や学習時間による働きかけを行う
- オンラインで自分のクラスの授業を視聴できる

知っていますか？「校内教育支援センター（スペシャルサポートルーム）」

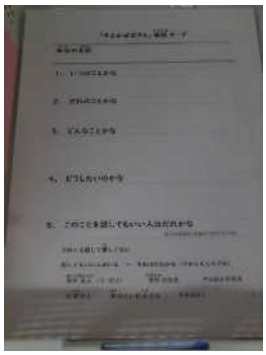
別室設置できる専用の教室。学校には行かられたと自分のクラスには入れない時や、少し気持ちを落ち着かせてリラックスしたい時に利用できる。学校内の学習教室を活用した相談のみ、どでも、児童生徒のペースに合わせて相談や学習のサポートをします。

【実践事例⑤】

・体制を整え、スペシャルサポートルームを運用している。*(※3)*

※３『具体的な流れ』
- 入級には保護者の申請が必要としている。
- 部屋は、人目に触れることなく入室できるように玄関近くの部屋を使用している。
- 学習支援は教育相談主任、特別支援教育コーディネーターが中心に支援している。適宜空いている教員も支援をしている。
- 毎週木曜日は、市の相談員が支援する。
- １日の取組を本人が決め、１日の最後にその日の振り返りを行う。家庭と学校をオンラインでつなぎ、学習する対応も行っている。

○校内教育支援センター（スペシャルサポートルーム）の運用例（写真②～⑤）



写真②

写真③

A 学校の運用例（写真②、③）

入口に『そよかぜポスト』と相談カードを設置し、相談しやすい環境を整えている（写真②、③）。また、写真③の左側に写っているように校内支援センター専用の靴箱も設置し、安心して登校できるようにしている。

写真④

写真⑤

B 学校の運用例（写真④、⑤）

一日の学習計画を児童生徒と一緒に立て、ホワイトボードに示すことで、見通しをもって過ごせるようにしている（写真④）。パーテーションで仕切りをつくりそれぞれの場所での目的を明確化している。丸テーブルがある場所は学習する場所、パーテーション裏は畳が敷いてあり、リフレッシュできる場所となっている（写真⑤）。

３「いかしてみよう!!研修会・研究会資料」

～埼玉県及び全国学力・学習状況調査「分析・活用・実践」研修会～

～北部地区授業力向上授業研究会～

P.19 ～ P.40

©埼玉県マスコット「コバトン」「さいたまっち」

令和６年度埼玉県及び全国学力・学習状況調査「分析・活用・実践」研修会

１　実施概要

中　学　校　・　数　　学

(1)日　時　　令和６年１０月２５日（金）　１３：３０～１６：３０
(2)場　所　　寄居町中央公民館
(3)参加者　　小中学校教員、市町教育委員会指導主事　３８名
(4)内　容
　ア 県学調について
　（ねらいと特長、北部の結果概要、活用のポイント）
　イ 全学調について
　（調査の目的、調査結果から、誤答の分析・活用、授業実践に向けた演習）

小　中　学　校　・　国　　語

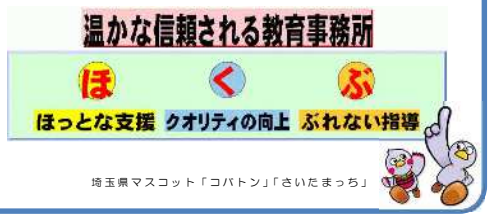
(1)日　時　　令和６年１２月５日（木）　１３：３０～１６：３０
(2)場　所　　熊谷地方庁舎
(3)参加者　　小中学校教員、市町教育委員会指導主事　１５７名
(4)内　容
　ア 県学調について
　（ねらいと特長、北部の結果概要、活用のポイント）
　イ 全国学調について
　（調査の目的、調査結果から、誤答の分析・活用、小中連携授業改善ワークショップ）

２　本資料の活用について

○本研修は、本県の指導の重点である「児童生徒一人一人を確実に伸ばす教育の推進」に努めるとともに、埼玉県学力・学習状況調査や全国学力・学習状況調査の結果の分析や活用、教科の課題と改善策を踏まえた「主体的・対話的で深い学び」の授業実践について研修し、北部地区の教員の指導力向上を図ることを目的として実施しています。

○本研修で実施した内容や、使用した資料等をまとめました。是非、学調結果を分析・活用し、授業改善等の実践につなげる一助としていただきたいと思います。

○一部の資料やワークシートは QR コード、総合教育センターホームページ内「学校支援コミュニケーションサイト」にて御利用いただけます。



３　埼玉県学力・学習状況調査の「分析・活用・実践」ポイント

(1)埼玉県学力・学習状況調査の特長

「学習した内容がしっかりと身に付いているのか」という視点に「児童生徒一人一人の学力がどれだけ伸びているのか」という視点を加えた子供たちの成長の姿が見える調査（令和６年度で１０回目の調査）

(2)調査から分かってきたこと

○「主体的・対話的で深い学び」の実施に加えて、「学級経営」が、子供の「非認知能力」「学習方略」を向上させ、子供の学力向上につながる

非認知能力：学力に代表される認知能力以外の様々な力（各学年2種類）

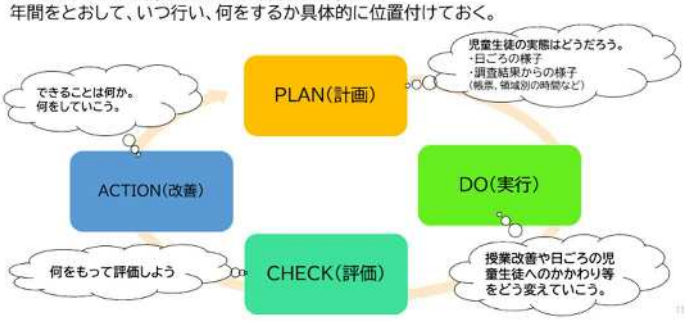
自己効力感	自分への自信、自己肯定力　など	全学年
自制心	イライラしない、心の平静を保てる　など	一部の学年
勤勉性	やるべきことをきちんとやる　など	一部の学年
やりぬく力	粘り強い、根気がある　など	一部の学年
向社会性	相手の気持ちを考える、親切にする　など	一部の学年

学習方略：子供が学びに向かうときの態度や学習の仕方（全学年5種類）

柔軟的方略	学習の仕方を自分の状況に合わせて柔軟に変更していく活動 例）勉強する順番を変えたり、分からないところを重点的に学習	全学年
プランニング方略	計画的に学習に取り組む活動	全学年
作業方略	ノートに書く、声に出すといった「作業」を中心に学習を進める活動	全学年
認知的方略	より自分の理解度を深めるような学習活動 例）学習内容を自分の言葉で説明してみる	全学年
努力調整方略	「苦手」などの感情をコントロールして学習への意欲を高める活動	全学年

「学級経営」がよいほど、「主体的・対話的で深い学び」が実現しやすい。
「学習経営」がよいほど、「非認知能力」「学習方略」を伸ばす。

PDCAサイクルの構築のために、各項目に対して、
年間をとおして、いつ行い、何をするか具体的に位置付けておく。



(3)帳票結果の分析・活用について

参照 令和6年7月25日付け事務連絡「令和6年度「埼玉県学力・学習状況調査」における調査結果の分析・活用等について（通知）」

【学級担任・教科担任者の帳票結果の分析・活用（例）】

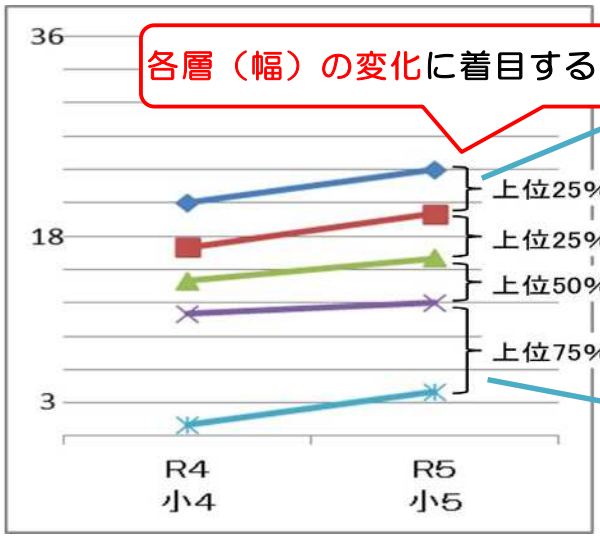
内容	学級の学力の伸びの状況	指導の工夫改善の成果	各教科の実態の把握
帳票の分析例	帳票40 児童生徒一人一人の学力のレベル・伸び・学習方略・非認知能力の数値から気になる児童生徒の把握・分析	帳票04 学校の回答と市町村教委、県平均の回答状況の比較 帳票10 児童生徒の回答と市町村教委、県平均の回答状況の比較 帳票04と帳票10 2つを比較することで、教職員と児童生徒の意識の差の分析	帳票09 各教科の領域ごと・設問ごとの正答率、無解答率や難易度を県平均との比較・分析 帳票33 学力を伸ばした児童生徒の割合、学力のレベルの伸びの平均の把握 帳票45 県平均と領域ごと・設問ごとの解答ログの比較
活用例	・気になる児童生徒に対する具体的な手立てと方策の検討	・教職員と児童生徒が「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業を振り返り、調査結果を授業改善に活用	・既習事項と結び付けた導入の工夫 ・授業改善に向けた具体的な取組の検討
検討者、検討場面例	・担任、学年職員 ・学年会	・校内研修 ・学年会	・教科部会 ・校内研修
参考資料	総合教育センター義務教育指導課研修用サイトを参照	質問調査の活用に当たって	帳票０９解説動画

❑学級担任・教科担当用、学校担当者用で、立場に応じた活用方法を例示
❑分析例、活用例、検討者・検討場面例、参考資料　を掲載

ぜひ参考に！

【R6 県学調報告書】
第３章　調査結果の活用

(4)帳票 28（学力の伸びの状況）の見方



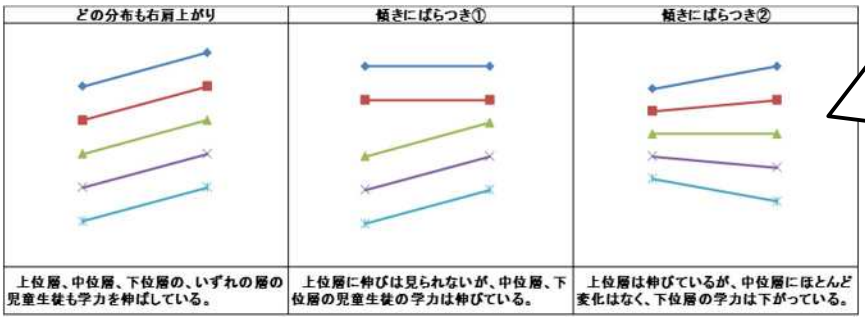
各層（幅）の変化に着目する

上位25%以上が含まれる
上位25%未満～50%以上が含まれる
上位50%未満～75%以上が含まれる
上位75%未満が含まれる

例 1
上位層がよく伸びている。
→伸ばした先生への聞き取りをして効果的な取組を共有する。

下位層の差が大きい
→下位層の児童へのきめ細やかな指導を行う。

◆ ⇒ 最大値（最も学力が高い児童・生徒が属する学力のレベル）
■ ⇒ 75%値（学力の高い順に並べたときに、上から数えて25%にあたる児童・生徒が属する学力のレベル）
▲ ⇒ 中央値（学力の高い順に並べたときに、上から数えて50%にあたる児童・生徒が属する学力のレベル）
× ⇒ 25%値（学力の高い順に並べたときに、上から数えて75%にあたる児童・生徒が属する学力のレベル）
＊ ⇒ 最小値（最も学力が低い児童・生徒が属する学力のレベル）



傾きのパターンにより、それぞれの層に属する児童生徒の状況を把握し、指導の効果検証・改善に活用する。

(5)帳票 40 色分けツールについて　※R6 リニューアル

参照埼玉県立総合教育センター・義務教育指導課研修用資料サイト「県学調活用資料」

色付け帳票 40

学校保管の出席番号と児童生徒名が自動で反映され、どのデータが誰のものなのかが分かりやすく整理される

それぞれの項目の変化量0を基準として
＋0.3より高いものが緑　－0.3より低いものが赤
±1.0以上高いものが太字
※クラス平均は±0.3を基準・・・クラス全体として良い方向やそうでない方向に5(もしくは4)段階中1段階程度変わっているというシグナルとしている。

それぞれの項目の県平均と比較して
＋0.3より高いものが緑　－0.3より低いものが赤
±1.0以上高いものが太字
※0.3の根拠：各設問の回答が一つでも良い方向やそうでない方向に変容した場合、約0.3の数値の変容があるため

各教科の「学力のレベル」・「36段階に変更した数値」・「昨年度からの伸び」を記載している。
※学力の伸びは「県平均の伸びと比較して」±1以上変容しているものに色を付けている。

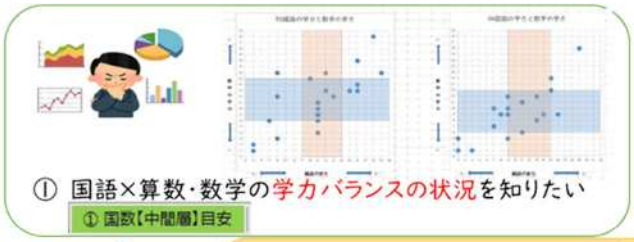
色分け帳票40

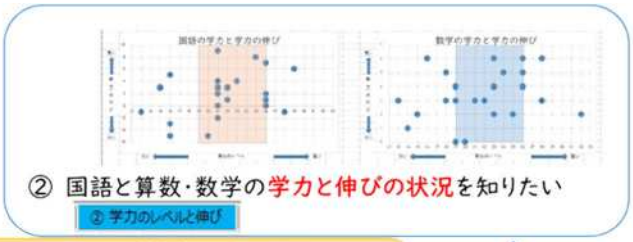
クラス集団を基準とした5層分布を色で示している。
※昨年度からの同一集団内での変化に着目し、相対的に伸ばしている子や伸び悩んでいる子を見つける。

クラス集団の県全体を基準とした5層分布を色で示している。
※昨年度からの同一集団内での変化に着目し、相対的に伸ばしている子や伸び悩んでいる子を見つける。

分析シート一覧

《多面的な視点で分析ができるように分析シートを追加》





【各種分析の視点】
①国語と算数・数学の学力分布
②学力のレベルと伸びの関係
③学力のレベルと自己効力感の関係
④個々の児童生徒の結果分析

目的に応じて、各種分析シートを活用!!

【義務教育指導課
研修用資料サイト】

©埼玉県 2005

※色分けツールはダウンロードして御活用ください。

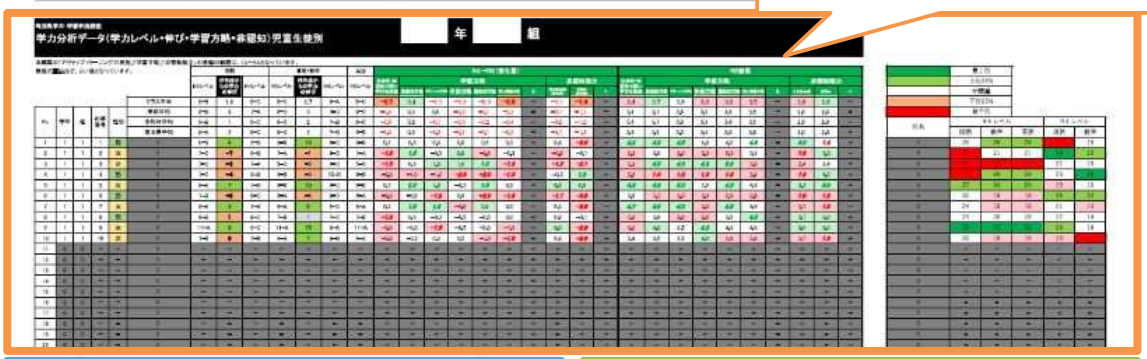
(6)研修会の演習にて使用したワークシート

※データは演習用仮想学級のもの

≪帳票 40 の分析から具体の手立てにつなげる≫

【事　例】仮想学級の帳票40を分析ツールで色付けしたもの

分析する学級のデータ



①学級や生徒の実態、その要因　など

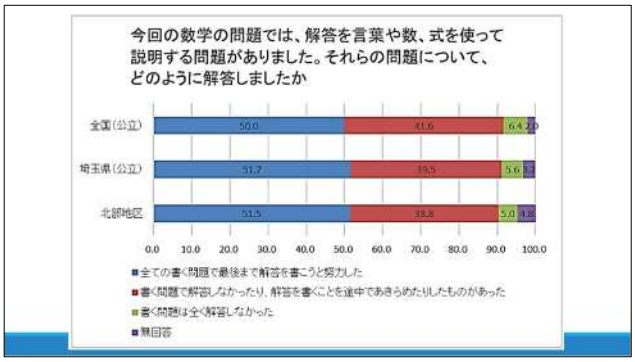
②指導・支援の手立て

データから、学級や個人の学習状況を見取り、その要因等について協議する。

実態や要因等に応じた具体的な手立てを検討する。

４　全国学力・学習状況調査（中学校・数学）の「分析・活用・実践」ポイント

全国学力・学習状況調査の結果から課題の見られた「思考力、判断力、表現力等の育成」について、授業改善に向けて協議・演習を行った。具体的には、現行の学習指導要領から取り入れられた新しい指導内容である「データの活用」領域の「箱ひげ図」に着目し、調査問題の誤答分析を通して授業づくりに係る演習を行った。



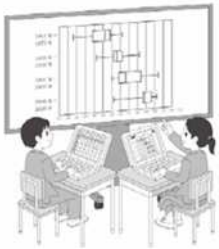
「思考・判断・表現」を問う記述式の問題に課題が見られる

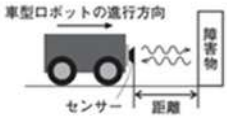
(1)誤答分析・活用

次の手順に沿って、誤答分析・活用を行った。誤答分析に使用した問題は、令和５年度の大問７（２）「データの傾向を読み取り、批判的に考察し判断すること（黄葉日）」と、令和６年度の大問７（２）「データの傾向を読み取り、批判的に考察し判断すること　（車型ロボット）」である。

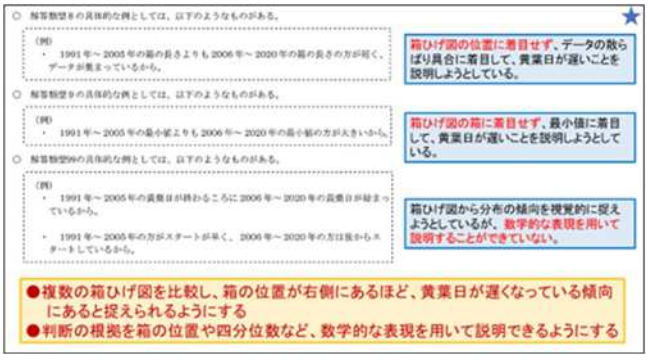
誤答分析・活用の手順

① 問題と出題の趣旨を把握する。
↓
② 反応率や誤答例から、自校の課題を明確にする。
↓
③ 課題解決のために、必要な指導を考える。
↓
④ 授業改善のポイントを整理する。





ア　令和５年度の大問７（２）の分析から≪手順①②≫

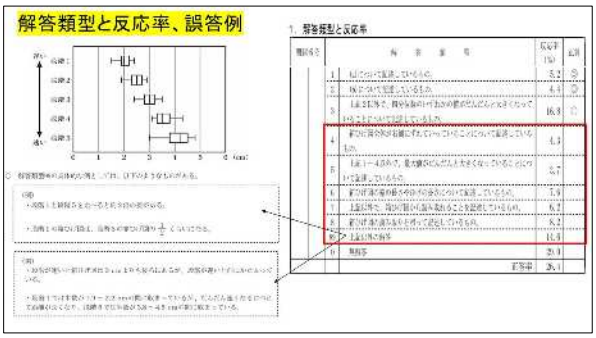


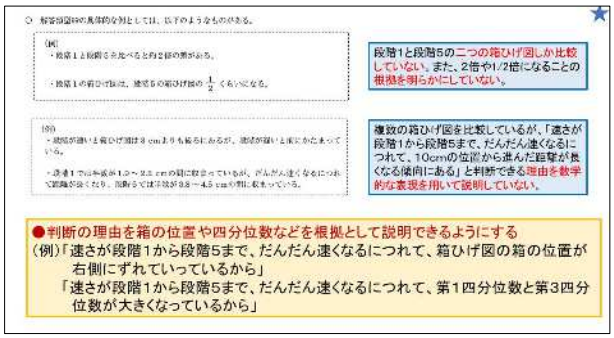
【誤答分析から見えた課題を解決するために、必要となる指導】≪手順③≫

●複数の箱ひげ図を比較し、箱の位置が右側にあるほど、黄葉日が遅くなっている傾向にあると捉えられるようにする。

●判断の根拠を箱の位置や四分位数など、数学的な表現を用いて説明できるようにする。

イ　令和６年度の大問７（２）の分析から≪手順①②≫





【誤答分析から見えた課題を解決するために、必要となる指導】≪手順③≫

●判断の理由を箱の位置や四分位数などを根拠として説明できるようにする。

ウ　２つの問題分析から、授業改善のポイントを整理した≪手順④≫

授業改善のポイント

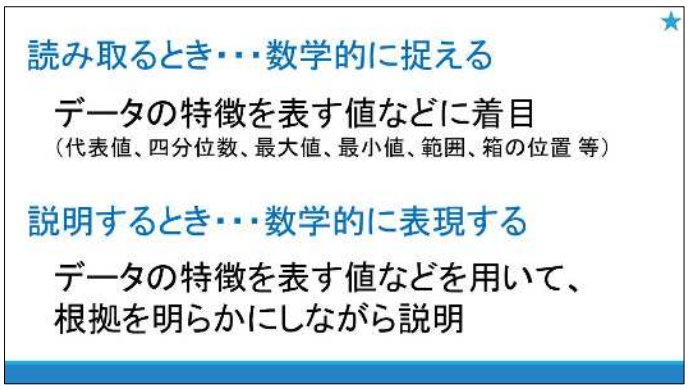
① 複数の集団のデータの分析について、箱ひげ図の箱の位置や四分位数などに着目し、比較しながら傾向を読み取る活動を充実させる。

② 判断の理由を、箱ひげ図の箱の位置や四分位数などを根拠とした数学的な表現を用いて説明する活動を充実させる。

(2)授業実践に向けた演習（授業づくり）

「データの活用」領域における指導の難しさの一つは、考察の結果として、ただ一つの正しい結論が導かれるとは限らないことである。そのため、問題解決において、生徒にどのような説明内容を求めるのかを明確にしておくことが重要になる。

上記の授業改善のポイントを踏まえ、教科書で扱っている具体的な題材（箱ひげ図から読み取ったことを、根拠を明確にして説明する記述式の問題）を用いて、話し合わせたい場面・話し合いの場面を明確にしながら授業づくりを行った。



ア　授業づくりに用いた題材

【本時の目標】複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、批判的に考察し、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。

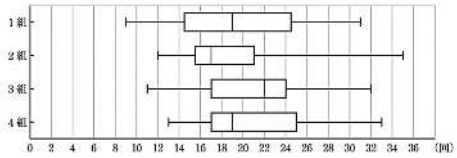
【まとめ】複数の箱ひげ図を比較して判断するときは、データの特徴を表す値など（四分位数や箱の位置　等）に着目し、多面的に吟味するとよい。また、判断の理由を説明するときも、データの特徴を表す値など（四分位数や箱の位置　等）を用いるとよい。

問題　体育大会で、クラス対抗の大縄跳びが行われます。
5分間に連続して跳んだ回数がもっとも多いクラスが優勝となります。
体育大会に向けて、どのクラスも1回5分間の練習を、毎日4回から5回行い、各回の最終回数を記録しています。
次の表は、練習を始めてから5日目までの記録をまとめたものです。

	記録（回）																			
	1組					2組					3組					4組				
1日目	14	9	14	22	18	12	20	21	13	14	22	11	25	18	22	17	14	13	26	17
2日目	9	12	15	22	19	12	17	20	16	26	17	23	13	22		19	17	18	18	
3日目	14	17	28	19	21	16	29	17	21	17	19	11	19	26	15	18	26	32	22	
4日目	19	21	29	24		14	19	27	16	21	23	32	17	23		28	18	24	19	
5日目	25	18	31	31	27	24	15	35	20	16	24	27	16	28	18	23	33	16	20	

東京書籍「新しい数学2」

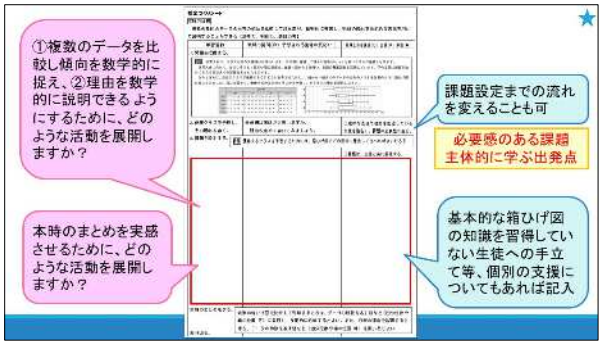
問題　ひろとさんは、自分のクラスが優勝できるかどうかを考えるために、1組から4組までのデータの分布のようすを箱ひげ図に表してみました。



箱ひげ図から、優勝するのはどのクラスかを予想し、そう考えた理由を説明しなさい。

東京書籍「新しい数学2」

イ　授業づくりシート　等（研修会で用いたスライドの一部を抜粋）



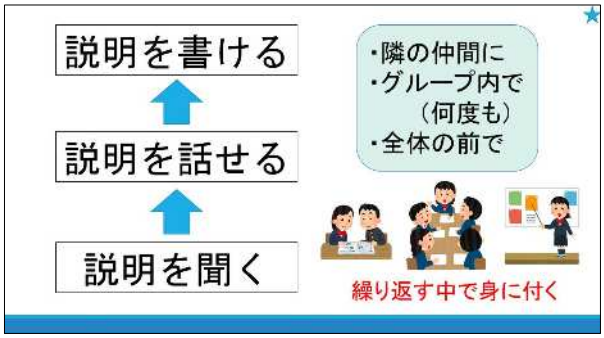
授業づくりのヒント

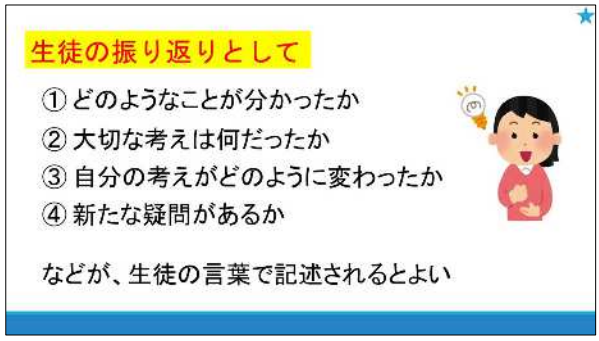
① 最初の生徒の理由説明には、どのような表現があると予想されるか

② 最終的に生徒に書かせたい理由説明は、どのような表現か

③ ①から②へ、生徒の思考や表現を促すために、どのような活動、発問、手立てを準備すればよいか

ウ．学習活動の工夫　等（研修会で用いたスライドの一部を抜粋）





学校支援コミュニケーションサイト

本研修会で使用した資料の一部は、総合教育センターの「学校支援コミュニケーションサイト」に掲載しています。ぜひ、自校における誤答分析・活用、そして授業実践に向けて御活用ください。

※自校のID・パスワードでログインして御活用ください。

５　全国学力・学習状況調査（小中学校・国語）の「分析・活用・実践」ポイント

(1)解答類型を基にした誤答分析について

本研修会では全国学力・学習状況調査で課題の見られた問題の誤答分析を行った。

【誤答分析の STEP】
- STEP１　問題文を把握する
- STEP２　解答類型から誤答の傾向を見る
- STEP３　誤答の割合の高いものを把握する
- STEP４　誤答例からつまずきの原因を予想する
- STEP５　つまずきの原因を情報交換する
- STEP６　自身に何ができるか考える。
- STEP７　自校で実践する
- STEP８　実践を共有する

誤答には児童生徒の思考プロセスが表れます。どの問題をなぜ間違えたのかを分析することで、具体的な授業改善につながります。解答類型と反応率は、全国学力・学習状況調査報告書や各校に配布の帳票に記載されています。学校によって反応率は異なります。自校の反応率を確認し、誤答分析をしてみましょう。

全国学力・学習状況調査報告書

題旨

目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容
〔第５学年及び第６学年〕　思考力、判断力、表現力等　B　書くこと
ウ　目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

1．解答類型と反応率

問題番号			解答類型	反応率（%） 全国	北部	自校	正答
2	二		（正答の条件）　次の条件を満たして解答している。 ①「たてわり遊び」のよさについて考えたことを書いている。 ②【高山さんの取材メモ】の下級生に聞いたことから言葉や文を取り上げて書いている。 ③ 60字以上、100字以内で書いている。				
		1	条件①、②、③を満たしているもの	56.7	60.3		◎
		2	条件①、②は満たしているが、条件③は満たしていないもの	0.7	0.5		
		3	条件①は満たしているが、条件②は満たしていないもの ＊条件③を満たしているかどうかは不問とする。	0.9	0.8		
		4	条件②は満たしているが、条件①は満たしていないもの ＊条件③を満たしているかどうかは不問とする。	33.0	33.0		
		99	上記以外の解答	3.8	2.9		
		0	無回答	4.9	2.4		

（正答例）
「お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった」という１年生や、「みんなが楽しそうでうれしかった」という４年生がいます。このように、「たてわり遊び」のよいところは、学年をこえた交流ができるところだと思います。

演習①では、令和６年度小学校国語　大問２二について、誤答分析を行った。正答は解答類型１で、全国の反応率は 56.7%、北部は 60.3%だった。誤答の割合が最も高いものは解答類型４で、全国も北部も 33%だった。33%の児童はなぜ間違えてしまったのだろうか。また、つまずきを解決するためにはどのような授業改善が必要だろうか？

最も多かった誤答　解答類型4　33%
条件②は満たしているが、条件①は満たしていない

【正答の条件】
① 「たてわり遊び」のよさについて考えたことを書いている。
② 【高山さんの取材メモ】の下級生に聞いたことから言葉や文を取り上げて書いている。
③ 60字以上、100字以内で書いている。

事実と意見を区別できないという躓きに対しては、「自己評価・相互評価をする機会を確保し、文章を読み返す習慣をつけること」などが協議の中で話題になった。

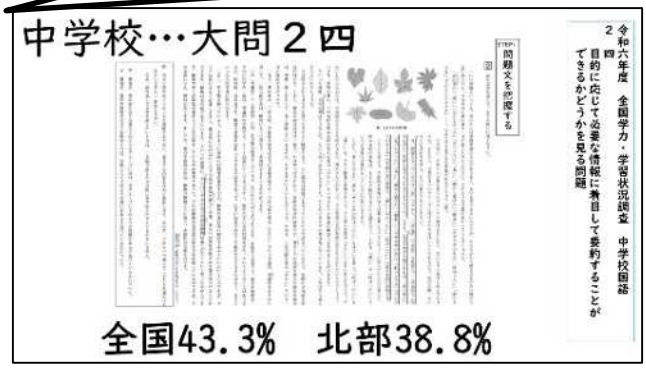
演習②　小学校…R3 大問２四、中学校…R6 大問２四

演習②で扱った問題は小中どちらも指導事項が「C　読むこと精査・解釈　ウ」である。つまりどちらも「要約できるかどうか」を見る問題を取り上げた。

小学校…R3大問２四

全国29.9%　北部28.3%

中学校…大問２四



全国43.3%　北部38.8%

R3　小6　全国29.9%　北部28.3%

■学習指導要領における内容
［第３学年及び第４学年］　思考力，判断力，表現力等　C　読むこと
ウ　目的を意識して，中心となる語や文を見付けて要約すること。

R4　中1

R5　中2

R6 の全国学調の全問題の中で
上から二番目に県の正答率と
開きがある問題（県との比率 87.5%）。
※一番開きがある問題は4ー（86.9%）
短歌の表現技法「体言止め」を選択する問題

R6　中3　全国43.3%　北部38.8%

■学習指導要領における内容
［第１学年］　思考力，判断力，表現力等　C　読むこと
ウ　目的に応じて必要な情報に着目して要約したり，場面と場面，場面と描写などを結び付けたりして，内容を解釈すること。　《精査・解釈》

【課題は『要約』】

小中ともに「読むこと 精査解釈のウ」に該当する。令和３年度の時点で「要約に課題がある」と明らかになったにもかかわらず、今年度さらに全国との差が開いてしまった。

小学校…R3 大問２四、

目的を意識して，中心となる語や文を見付けて要約することができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容
［第３学年及び第４学年］　思考力，判断力，表現力等　C　読むこと
ウ　目的を意識して，中心となる語や文を見付けて要約すること。

1．解答類型と反応率

問題番号		解答類型	反応率（%）全国	反応率（%）北部	反応率（%）自校	正答
2	二	（正答の条件） 次の条件を満たして解答している。 ① 以下の内容を取り上げて書いている。 a 【資料】で説明されている面ファスナーのよさ b 【資料】で説明されている国際宇宙ステーションでの使われ方 ② 【資料】から言葉や文を取り上げて書いている。 ③ 50字以上，70字以内で書いている。				
		1　条件①a，bの両方と，条件②，③を満たしているもの	29.9	28.3		◎
		2　条件①a，bの両方と，条件②は満たしているが，条件③は満たしていないもの	0.1	0.0		
		3　条件①a，bの両方は満たしているが，条件②は満たしていないもの ＊条件③を満たしているかどうかは不問とする。	0.0	0.0		
		4　条件①aは満たしているが，条件①bは満たしていないもの ＊条件②，③を満たしているかどうかは不問とする。	8.2	8.4		
		5　条件①bは満たしているが，条件①aは満たしていないもの ＊条件②，③を満たしているかどうかは不問とする。	44.5	45.8		
		6　条件②は満たしているが，条件①a，bは満たしていないもの ＊条件③を満たしているかどうかは不問とする。	10.3	11.8		
		99　上記以外の解答	1.5	1.5		
		0　無回答	5.5	4.4		

（正答例）
面ファスナーはしっかりとくっつきかん単にはがせることから，物がうかぶ国際うちゅうステーションの中で，身の回りの全ての物の固定に使われている　（70字）

中学校…R6 大問２四

目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容
［第１学年］　思考力，判断力，表現力等　C　読むこと
ウ　目的に応じて必要な情報に着目して要約したり，場面と場面，場面と描写などを結び付けたりして，内容を解釈すること。　《精査・解釈》

1．解答類型と反応率

問題番号		解答類型	反応率（%）全国	反応率（%）北部	反応率（%）自校	正答
2	四	（正答の条件） 次の条件を満たして解答している。 ① アとイのいずれか一つの〈着目する内容〉を選んで，その記号を塗り潰している。 ② 選んだ〈着目する内容〉について，必要な情報を適切に取り上げて書いている。 ③ 選んだ〈着目する内容〉について，まとめて書いている				
		1　条件①，②，③を満たして解答しているもの	43.3	38.8		◎
		2　条件①，②を満たし，条件③を満たさないで解答しているもの	0.0	0.0		
		3　条件①，③を満たし，条件②を満たさないで解答しているもの	36.1	43.4		
		99　上記以外の解答	12.3	10.8		
		0　無回答	8.3	7.0		

（正答例）
ア：葉の形を表す言葉を，二次元的な形容のグループと三次元的な形容のグループに分け，前者には多様性，後者には共通性という特徴があると述べている。
イ：数学や物理学などは普遍性の学問，生物学は普遍的なことにも例外のある多様性の学問という違いがあると述べている。

演習②では、小中学校でグループを再編成し、解答類型に基づく反応率を分析して躓きの原因と対応策を考えた。今回の問題は小中どちらもで「要約」に関するものであり、小３・４年生と中１で学習しているが、学びの系統性に課題がある。「要約」は「要点」や「要旨」と混同しやすく、見取りも難しいため、小中で連携し重点的に指導する必要がある。自校でも反応率を分析し、授業改善に役立てていただきたい。

(2)小中連携授業改善ワークショップについて

演習①②で行った誤答分析を基に、「北部地区の小中学校教員が教科書や学年の違いを超え、国語の学力向上を図る授業改善のために実践可能なアクションプランを作成する」というゴールに向けたワークショップを行った。

小中連携授業改善ワークショップ　ワークシート（記入例①　授業者）

【ワークショップのゴール】北部地区の小中学校教員が教科書や学年の違いを超え、国語の学力向上を図る授業改善のために実践可能なアクションプランを作成する。

【本日の重点指導事項】児童生徒に付けたい力（指導事項から）

【小学校】【第３学年及び第４学年】　領域名「読むこと」Ｃ（１）
ウ　目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。

【中学校】【第１学年】領域名「読むこと」Ｃ（１）
ウ　目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈すること。

STEP1：現状観察（個人記入）
本日の重点指導事項を踏まえ自校の実態を書き出す。
・要約は４年生で学習済であることは把握していたが、5･6年生の段階で特に「要約」という用語を用いて書かせたことはあまりない。
・「要約」以外にも「要旨」「要点」等、似ている言葉があるため、特に低位の児童にとっては困難である。

STEP2：各自の経験や意見交流を通して効果的な取組を考える
・本校の６年生を対象に、R3 全国学調大問2四をテストし、習熟度を把握する。
・「要約」という用語を児童が正確に理解しているか、明日児童に授業中に聞いてみる。
・三学期の説明的文章の単元に向けてレディネステストを行い、実態を正確に把握する。
・県学調の帳票 09 を研究主任から見せてもらい、県学調での実態を把握する。
・該当学年の教科書を確認し、学びの過去と未来を確認する。
・「優れた指導技術」動画の ID と Poss を教頭先生に聞き、授業動画を学年で見てみる。

STEP3：意見交流を参考に実行できそうな取組を書き足す
・三学期に説明的文章の授業実践を行い、全職員に公開する。
・要約をするためには要点をまとめることが重要であるため、「要約」「要点」「要旨」の違いが分かるよう適宜指導する。
・地域の国語主任に相談し、よい先行事例がないか尋ねる。
・本日学んだことを明日の職員打ち合わせや学年会で共有し、3学期や来年度の校内研究にどういかすか検討する。
・説明的文章の授業公開だけでなく、2月の意見文の授業でも要約を取り入れ、目的や意図に応じて事実と感想、意見とを区別して書く指導事項ともリンクした魅力的な言語活動のゴールを学年で検討する。
・中学校ではいつどのように要約を学ぶか中学校の先生から聞き取り、要約を学ぶことのメリットを児童にプレゼンする。

【STEP4：私のアクションプラン】

いつ	１２月末までに	冬休み中	２月
どこで	６学年全学級	国語部会 学力向上推進委員会	６－１
だれが	６年担任・国語部	国語部員 学力向上推進委員	授業者：自分 参観者：全職員
なにを	R3 全国学調大問２四実施	R3 全国学調大問２四実施結果 誤答分析・授業検討	授業公開：説明的文章
なぜ	児童の現在の力を正確に 把握するために	実態に合った授業を 実施するために	本日学んだことを具体的な授業実践として用知し、本校の書く力を向上させるために
どのように	朝学習の時間を活用し、R3 全国学調大問２四を実施する。朝学習の時間内に評価まで完結できるよう、タブレットを活用する。	本日の誤答分析を参考に自校の児童の解答を解答類型に振り分け、実際の反応率を基にどのような授業改善が必要か検討する。	研究主任と管理職に相談し、できるだけ多くの先生方に参観していただき沢山の意見をもらい、来年につなげる。

【小中連携の視点】
・オンライン上での教材共有や連携ツール（例えば、Google Classroom や Teams など）を使って、小中の事例（指導案・板書・ワークシートなど）を相互に確認できるようにする。
・2 月の授業実践の第１時の導入で、この単元で学ぶことは中学校でも役に立つことを児童に説明し、モチベーションを高める。また、発達段階に応じて、「なぜ要約する力が役に立つのか」説明し、意図的に要約する機会を単元の中に取り入れ、習熟を図る。
・可能であれば中学校の国語科の先生から６年生へ激励のメッセージが欲しい。

【STEP１：現状観察】
- 児童生徒の現状は？
- 成果があった取組は？
- 難しさを感じていることは何かあるか？

【STEP２：取組考案】
- 要約する力をつけるために有効な手立ては？
- 自分の立場で何ができるか？

【STEP３：意見交流】
- 小中学校ではそれぞれどのような取組をしているか？
- 実行できそうな小中連携の取組は？

【STEP４：私のアクションプラン完成】
児童生徒に要約する力をつけさせるために、自分にできそうなことは？

小中連携を図った演習を通して、児童生徒に要約する力をつけさせるためのアイディアが出された。以下はその一例である。

① 要約の目的を明確に伝える
② 小中連携による系統的な指導をする
③ 良い要約と不十分な要約を示し、どこが違うのか考えさせる
④ 児童生徒同士で要約を読み合い、「相手に伝わるか？」を意識する活動を行う
⑤ 要約をするためには要点をまとめることが重要であるため、「要約」「要点」「要旨」の違いが分かるよう適宜指導する　など

解答類型に基づいた誤答分析から具体的な授業改善につなげるため、本研修会の資料をぜひ活用してください。

上記は授業者目線で作成したワークシートの例です。「学校支援コミュニケーションサイト」には学力担当者の立場で書かれたアクションプランの例や、当日使用したスライド、昨年度の本研修会で使用した「授業づくりシート」など、さまざまな資料があります。ぜひ校内研修や普段の授業づくりの一助として活用してください。

【中学校】特別活動

令和６年１０月１５日（火）　　熊谷市立中条中学校
授業提案者　熊谷市立中条中学校　大平　悠太　教諭

１　授業のポイント

主体的・対話的で深い学びの実現を踏まえた展開

①主体的な学び　学習活動を見通し、振り返り、課題を解決していこうとすること

【問題の可視化】事前にアンケート等を実施し、学級の実態を示すなど、可視化することを通して本時の学習に対する必要感を高めている。

→教師は事前のアンケートを実施し、生徒の実態を把握したうえで学級活動委員会を指導支援した。学級活動委員会は一人一人の生徒の「思いや願い」をもとに議題を選定し、提案理由を事前に練り上げ、学級会コーナーに示すことで、全生徒で共通理解を図れるようにしている。

【活動の振り返り】事前・本時（話合い）・事後の一連の活動を踏まえ、振り返りを行っている。

→教師は意見のつながりを意識したり、提案理由に基づいて発言したりした生徒の様子を肯定的にフィードバックしている。

②対話的な学び　学び合い等、他者と協働することによって、自己の考えを広げ深めること

【話合いの工夫】話合いの進め方やまとめ方を示している。

→生徒は、年度当初から意識してきた「話合いのルール」やマナーを理解するとともに、生徒が自分たちで決めた「話合いのルール」に基づいて話合いをしていた。

【多様性の涵養】話合いを通して、他者の考えに触れたり、自分の考えを広げたりすることで、合意形成をすることがきるようにしている。

→生徒は、他の生徒の発言をよく聴き、つながりのある発言をしていた。

③深い学び　見方・考え方を働かせて、より深く理解したり考えを形成したりすること

【板書の工夫】意見を比べやすくするために短冊を活用したり、見出しを用意して意見を分類したりしている。

→生徒は、短冊など学級会グッズを活用することで、「自分もよく、みんなもよい」意見として合意形成するように、意見をつなげる話合いができた。

【実生活での活用】話合いで決まったことに対して、自分は学級のために何ができるかを考えるようにしている。

→学級会ノートが事前の学習・話合い・事後の学習まで一貫して活用できるようになっており、生徒は、一連の学習を見通して学ぶことができていた。話合いの最後には合意形成したことに関して、自分が今後どのように取り組んでいくかについて書けるように工夫されていた。

２　協議（参加者から出た意見）

協議題　自発的・自治的な学級会にするためのポイントについて

- 「今回の議題を話合う必要性」を教師も生徒も十分に理解する。（目的の明確化）
- 生徒にとって「やらされる学級会」ではなく「やりたい学級会」にできるか。
- 事前の活動を充実させる。（提案理由の練り上げ、司会グループへの指導支援　等）
- 中学校は小学校の実践から学ぶことが多い。小中の連携が必要である。学級会グッズを統一している事例がある。

- 事後の活動の時間を充実する必要がある。振り返りを充実し、学級会後の学級生活の向上につなげたい。
- 教師の介入は、最小限にしたいが、必要に応じて指導支援を行う必要がある。（意見の“交通整理”や不適切な発言への指導　等）
- 校内でもが学級活動（１）の実践について「差」を感じている。校内研修等で先生方の考え方をそろえるとともに、学級会グッズを統一したり、話合いの方法について全体でガイダンスをしたりする等、学校全体で、学級活動（１）充実の取組を推進したい。

３　参加者の感想

- 担任が引いたレールの上で話合いをさせるだけでなく、子供自身が自分で決めて話合いが進めていけるとよい。子供一人一人を大切にして、子供が主体となる話合いが行えるようにしたい。
- 担任の「待つ」姿勢が、子供の自主性・自律性を育んでいると感じた。
- 議題は、子供たちにとって「切実感」、「必要感」をより感じるものを設定していけると、話合いが活発になると改めて感じた。また、そのための「種まき」は教師が意図的に行っていく必要がある。
- 学級会を行うことの意味や目的を改めて実感した。生徒の学力向上や人間力の向上につながることがよく分かった。
- 担任は、クラス全体を見ることも大切にしつつ、個人をしっかりと見て、認めることが大切。そのために、信じ、期待し、任せ、頼りにしようとすることを心がけたい。
- 学級活動（１）の授業を見る機会が少ないので、今回改めて授業参観や意見交換の必要性を感じ、貴重な研修になった。

第２学年１組　学級活動⑴学習指導案

令和６年 10 月 15 日(火)
第５校時　２年１組教室
生徒数　　13(14)　名
指導者　　大 平　悠 太

１．議題

「学級力を向上させよう」（ア　学級や学校における生活上の諸問題の解決）

２．議題について

⑴　生徒の実態　（省略）

⑵　議題選定の理由

本学級では、年度当初から継続的に「学級力アンケート」を行ってきた。本議題は、そのアンケートの結果を受けて、「よりよい学級にしたい、よりよい学校生活を送りたい、学級としての力（「学級力」）を高めたい」という生徒の願いから、選定された議題である。

「学級力アンケート」は、新しい学級が始まって１ヶ月後の５月に１回、夏休み前に１回、そして、運動会が終わったあとすぐに１回の計３回実施している。このアンケートは、「学級力」を高め、学校全体をレベルアップしていこうという取組の一環として、全校で実施しているものである。職員室前に各学年、各学級のアンケート結果をグラフ化したものと生徒による分析結果を掲示しており、それぞれの学級のよさや課題などが明確にわかるものとなっている。

本学級では、結果分析により、主体性やけじめをつけられる力（「自律力」）の向上に課題があることが分かっており、生徒もその課題を理解したうえで、「自律力」を改善・向上させるべく、日々学校生活において取り組んでいる。

事前の活動では、第３回の学級力アンケートの結果を掲示し、学級活動委員による分析を行った。また、そのアンケートの結果を踏まえ、「どのような取組をしたら学級力を上げることができるか」について意見を集め、学級活動委員会が集約し、学級会前に全員で共有した。

学級会では、自治的な学級会になるように、第１回学級会で考えた「２年１組の学級会のルール」をもとに、一人一人が意欲的に話し合えるように支援していく。これまでの経験を踏まえ、学級会グッズ（学習の流れのカード、賛成・反対マーク、短冊等）を上手に利用し、学級会の流れがわかるような黒板になるように声かけをしていく。また、三段階討議法を用いて意見をまとめていくが、話し合うこと①②③の「出し合う」場面については、学級活動コーナーを参考にさせ、スムーズな進行ができるよう促す。

事後の活動では、実際に決まったことを全員で取り組み、その後、「事前」・「話合い」・「事後」の一連の学習について振り返ることができるようにする。そして、次のアンケートの結果を集計・分析することを通して、さらに学級力を高め、「自律力」のある学級を築けるようにする。

このように、学級会を核にした一連の学習の中で「自律力」が高まるように指導支援していく。

３．評価規準

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
学級や学校の生活上の諸問題を話し合って解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解している。 合意形成の手順や活動の方法を身につけている。	学級や学校の生活をよりよくするための課題を見出している。課題解決に向け、話し合い、多様な意見を活かして合意形成を図り、協働して実践している。	学級や学校における人間関係を形成し、見通しをもったり、振り返ったりしながら、他者と協働して主体性やけじめをつけられる力「自律力」の向上を図ろうとしている。

４．事前の活動

日時	生徒の活動	指導上の留意点	◎目指す生徒の姿 【観点】（評価方法）
１０月８日(火) 運動会終了後 全員 帰りの会	・第３回学級力アンケートを実施する。（Forms）	・第２回学級力アンケートの実施から比較をして回答できるように助言する。 ・学期末最後のアンケートであることを伝える。	◎自分たちの学級を客観的に見て、一つ一つの項目に回答している。【思・判・表】（アンケート）
～９日(水) 学級活動委員 昼休み・放課後	・アンケート結果を集計・分析する。 ・提案理由を練り上げる。 ・意見ボックスを設置する。 ・意見の収集、学級活動コーナーへ掲示する。	・生徒全員が納得できる提案理由になるよう、助言する。	◎学級会での話合い活動がスムーズに進行するように、先を見通して、進んで議題を考えたり、選んだりしようとしている。 【態】（観察）
～９日(水) 全員 昼休み・放課後	・議題や提案理由を全体へ周知し、決定する。 ・学級活動ノートに自分の考えを書く。	・提案理由や決まっていることを踏まえた意見が出せるように助言する。	◎提案理由に沿った意見を考え、判断し、学級会ノートに書くことができる。 【思・判・表】（学級活動ノート）
10 月 10 日(木) 学級活動委員 +司会グループ ２時間目　学活	・２年２組が行っている学級会のようすを客観的に見る。 ・学級活動委員と司会グループの生徒は、２組の教室へ行き、学級会の様子を見学する。	・短冊の内容がわからないものについては、意見を出した人から説明してもらう。「決まっていること」に合わないものがないかの確認も行う。	◎学級活動委員の役割や、話合いの効率的な進め方を理解している。【知・技】（学級活動委員会での様子）

５．本時の活動

(1)　ねらい

提案理由を踏まえ、自分の考えをもつとともに、仲間の考えを受け入れながら合意形成を図ることができるようにする。

(2)　展開

活動の内容	指導上の留意点	◎目指す生徒の姿 【観点】（評価方法）
1　はじめの言葉 2　役割紹介 3　議題の確認 4　提案理由の説明 5　話合いのめあての確認 6　決まっていることの確認 　アンケートの集計結果発表 7　先生の話	輪番の議長団、コの字型の机配置、事前に意見を出しておいてもらい、「出し合う」まで済ませておき、短冊を作っておく 2-1 学級会のルール 壱　一人一回以上発表をすること 弐　理由・根拠を言うこと 参　相手の意見に口出ししないこと 肆　（必要に応じて）譲り合うこと 伍　一人一人の意見を少しずつ取り入れた考えをつくること。 ・決まっていること（条件）を全員で共通理解できるように助言する。 ＜決まっていること＞ ・学級力アンケートの結果（別紙） ・後期が始まって１１月に条中祭がある。	**話合いの進め方** ○賛成意見と反対意見を発表していく。 ○反対意見を出すときは、合体意見や心配なことなどを発表する。 ○賛成…賛成君(桃)を貼る。 ○反対…反対君(青)を貼る。 ○決定したものに決定マグネットを貼る。 ○決まらなかったものには、「ありがとう」マグネットを貼る。※消さないで残す。

8　話合い ・話し合うこと① 「どんな取組にするか」 ・話し合うこと② 「もっと深める工夫」 ・話し合うこと③ 「役割分担」 「プロジェクトリーダー」	・三段階討議法で話合いを進める。 ・時間短縮のため、事前の活動で行っておいた「出し合う」を踏まえての「比べ合う」から始める。 ・「比べ合う」→「まとめる」において、意見がまとまらなかったり、議題から逸れそうになったりした場合、適宜助言し、「提案理由」や「決まっていること」に戻りながら合意形成が図れるようにする。 ・時間通りに進まなかった場合、話し合うこと③については、学級活動委員会等で検討し、短学活等で提案することとする。	◎学級の現状を理解し、提案理由に基づきながら、どのような取組・活動をしたらよりよい学級になるかを考えて発言している。【思・判・表】（観察）
9　決まったことの確認 10　私の実践目標、自己評価、感想の記入 11　先生の話 12　おわりの言葉	①合意形成を図ることができたことへの称賛。 ②次回の学級会に向けての反省点・課題。 ③学級活動委員、司会グループへのねぎらい。 ④実践への意欲を高める話。	◎「自律力」向上のために、決まったことについて自分には何ができるかを考えている。【思・判・表】（学級活動ノート） ◎合意形成を図るための話合いの進め方や約束事を理解している。【知・技】（発言、学級活動ノート）

６．事後の活動

日時	生徒の活動	指導上の留意点	◎目指す生徒の姿 【観点】（評価方法）
学級会後 全員 昼休み・放課後	・決まったことの準備を行う。	・時間的に厳しいようなら、準備をする時間を設けるようにする。	◎活動の目的を考え、めあてを意識しながら友達と協力しながら実践している。【思・判・表】（観察・発言） ◎学級会で決まった取組の成果と課題を振り返り「自律力」の向上という観点から、よりよい学級を築くために大切なことに気づき、次の活動に活かそうとしている。【態】（振り返り）
学級会後 1、2組合同の学級活動委員 昼休み・放課後	・２組の学級会で決まったことをすり合わせ、確認する。お互いの学級の学級力を向上させ、学年の力を高められるよう共通認識する。	・担任（学年職員）も立ち合い、必要に応じて補足できるようにしておく。	
学級会後 全員 学校生活	・学級会で決まったことを実践する。	・役割分担に従って、協力しながら取り組むようにする。	
活動終了後 全員 昼休み・放課後	・第４回学級力アンケートを実施する前に、振り返りを記入する。	・自分の態度を振り返るとともに、仲間の頑張っていたところやよいところについても認めるよう助言する。	
冬休み前 全員 放課後	・第４回学級力アンケートの実施。（Forms）	・第３回学級力アンケートの実施から比較をして回答できるように声かけをする。	

７．板書計画

十月十五日（火）

第六回　**学級会**

議題　学級力を向上させよう

提案理由

第３回学級力アンケートの結果、主体性やけじめをつける力「自律力」の向上に課題がある。

さらに学級の力を高めるために２年１組全員で何ができるかを考え、実行する。

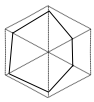
「自律力」が高まる！

決まっていること

・学級力アンケートの結果（別紙）

・後期が始まって十一月に条中祭がある。

学級力アンケート③



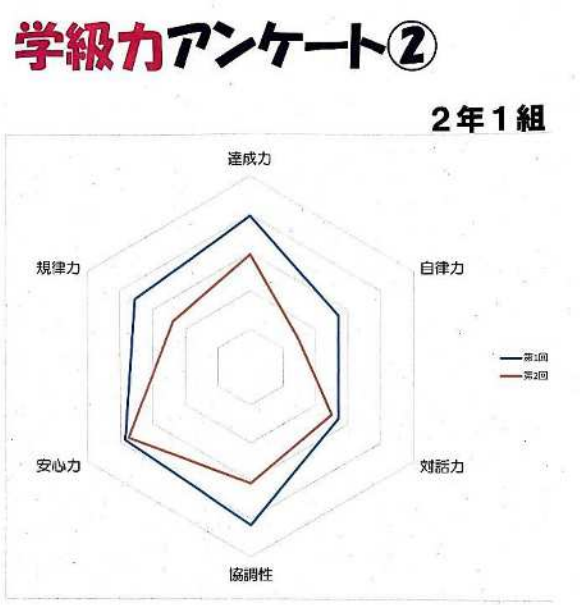
話し合うこと①　どんな取組にするか

話し合うこと②　もっと「自律力」を深める工夫

話し合うこと③　役割分担・プロジェクトリーダー

決まったこと

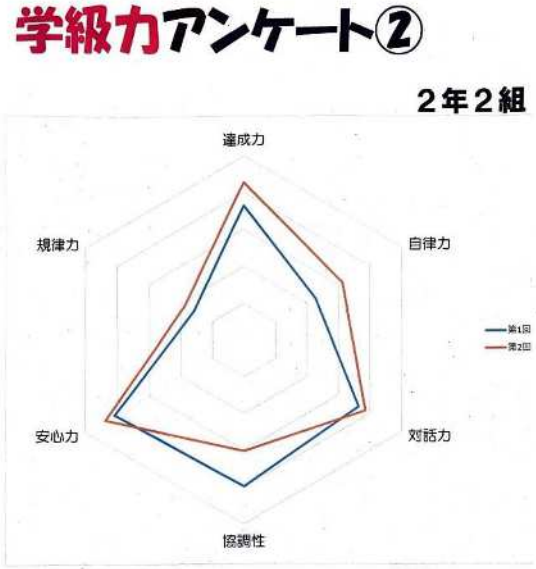
＜参考①＞　第２回学級力アンケート　集計結果と生徒の分析（１組・２組）



＜グラフの分析＞

第１回と比べて、第２回は自律力ができていない。理由は、全員で行動しようとしていて１人１人が個人で行動していないから。

安心力ができていて、友達が失敗してもなぐさめてくれる人がいるから安心するのだと思う。



＜グラフの分析＞

◎規律力、協調性が課題

・規律力…無駄なおしゃべりをしない
　　整理整頓をする

・協調力…「ありがとう」をもっと伝え合う
　　小さなケンカやトラブルは話合いで解決できるようにする

＜参考②＞　学級活動ノート

学級活動ノート⑥　～過去から未来へ。そして現在（いま）すべきこと～　　１０月１５日（火）第５校時

議　　題	学級力を向上させよう
提案理由	前期の終わりを迎えようとしている中、先日、第３回学級力アンケートが行われ、その集計結果が出ました。第２回の学級力アンケートの結果と比較すると、運動会もあったせいか、少し上がったところもありました。これから始まる後期に向けて、２年１組全員で何ができるか、どんな取組をしたらいいかを考え実行することで「自律力」が高まり、さらに学級の力が高まると考え、提案しました。
決まっていること	・学級力アンケートの結果（別紙） ・後期が始まってからすぐの 11 月に条中祭がある。
役割分担	司会(　　)(　　)　　記録(　　)(　　)

話合いの順序	自分の考え・意見（学級会前に記入しておく）
1　はじめの言葉 2　役割紹介 3　議題の確認 4　提案理由の説明 5　話合いのめあての確認 6　決まっていることの確認 　アンケートの集計結果発表 7　先生の話	
8　話合い **話し合うこと①**（　　分） 「どんな取組にするか」 **話し合うこと②**（　　分） 「もっと「自律力」を高める工夫」 **話し合うこと③**（　　分） 「役割分担・プロジェクトリーダー」	
9　決まったことの確認 10　私の実践目標・ 　自己評価・感想の記入 11　先生の話 12　おわりの言葉	【決定事項】 【私の実践目標】 私は、

自己評価（本日の話合いの反省）	評　　価	全体を通しての感想
①　提案理由に沿って考えられた。	A　B　C　D	
②　自分の意見を言えた。	A　B　C　D	
③　他の人の意見を聞いて活かすことができた。	A　B　C　D	
④　決定事項を理解し、活動意欲が高まった。	A　B　C　D	

【中学校】音楽

令和６年１２月１７日（火）　　上里町立上里中学校
授業提案者　上里町立上里中学校　浅岡　勇輝　教諭

１　授業のポイント

主体的・対話的で深い学びの実現を踏まえた展開

①主体的な学び　学習活動を見通し、振り返り、課題を解決していこうとすること

【共通事項の確認】事前に、その題材において生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素を明確に設定し、授業展開を考えている。

→教師は、本時の生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素を「音色」に焦点化し、授業を展開した。生徒が、ギターの音色や響きと奏法との関わりについて理解できるよう、発問や板書を行った。

【変容の価値付け】生徒の表現の変容を捉えて、そのよさや表現の工夫を伝えながら価値付け、全体で共有している。

→教師は、生徒が弦の押さえ方や指の動かし方を工夫することで、ギターの音色や響きが変わったことを捉え、生徒自身にも変容が実感できるよう、音や言葉で説明し、全体にも共有した。

②対話的な学び　学び合い等、他者と協働すること等によって、自己の考えを広げ深めること

【目的の理解】何のために対話するのか、その目的を生徒、教師が理解している。

→教師は、生徒同士の関わりの中で思考が深まることを理解し、学び合いの場の設定を行った。生徒は、互いの演奏技能や表現技能が高まることを実感することができた。

【思考の深化】他者の感じたことや思考したことを、必要に応じて音で確認したり、実際に表現しながら試行錯誤したりする活動が設定されている。

→生徒は、ペアでお互いの演奏を１人１台端末で撮影し、録画した映像を確認しながら演奏の改善点を話し合ったり、何度も演奏を試したりすることで、演奏技能の向上につなげていた。

③深い学び　見方・考え方を働かせて、より深く理解したり考えを形成したりすること

【生徒との対話】授業の中での生徒の発言を取り上げ共有したり、問い返しや切り返しをしたりしている。

→教師が生徒から意見を引き出し、さらに問い返しや切り返しを行いながら言葉を整理することで、学習の課題設定やまとめを行うことができた。

【活動内容の工夫】音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質を理解する活動が設定されている。

→教師は、生徒が曲にふさわしい音色を知覚し、演奏に必要な奏法を理解するため、１人１台端末を活用させた。自身の演奏を客観的に捉え、理解することにつながった。

２　協議（参加者から出た意見）

協議題

柱①器楽分野の充実のための手立て及び指導と評価の一体化について

- 知識や技能の個人差があってもペアで学び合うことで、効率的に学習できる。
- 技能の差を補うために、曲のアレンジ等をして生徒の実態に合わせる。
- 自分の演奏を客観的に捉えたり、撮影した動画を全体で共有して話合いをしたりする際に、ＩＣＴの活用は効果的である。
- 小学校から音程やリズム等の読譜を定着させることで、合奏が充実する。
- レンタル楽器を利用することで、個別最適な学びの実現が可能となる。

柱②音楽における小中連携について

- 学びの連続性や系統性を知るため、互いの校種の学習指導要領をよく読み、指導内容を把握しておく必要性を感じた。
- 中学校区内で、中学生が小学生に合唱を聴かせたり、中学校教員が小学校に合唱指導をしたりできるとよい。

３　参加者の感想

- 小中学校の先生方で情報交換ができたのは、とてもよかった。
- 他校の先生方も、同じような悩みを抱えていらっしゃることがわかった。またこのような研修の場で、課題を解決できたらよいと思った。
- 技能とは、思いや意図を表現するために必要なものであることを理解し、技能習得だけがゴールにならないようにする。
- 生徒とのやり取りから出た言葉で課題やまとめを設定していたことが素晴らしかった。取り扱う音楽を形づくっている要素を精選することも大事である。
- 誰一人取り残さないために、教材教具の工夫や環境整備が大切だということがよくわかった。コの字型の座席配置は、学習内容によって取り入れたい。

第２学年２組　音楽科学習指導案

令和6年１２月１７日（火）第5校時
在籍生徒数　　３９　　名
授業者　　教諭　浅岡　勇輝
場　所　　第１音楽室

１　題材名　　「美しい音色を感じながらクラシックギターを演奏しよう」

２　題材について
（１）　生徒の実態（省略）

（２）　題材について
　本題材では、小学校までの資質・能力の定着の差に関係なく、全ての生徒が同じスタートラインに立ち、主体的・対話的に学習に取り組めるような授業展開を工夫していく。生徒は１０月に行われた合唱コンクールでの取組の中で、頭声発声のよさに気付くことが難しかったという実態があるため、本題材では、音色に着目しながらクラシックギターのよさや魅力を味わわせていくことをねらいとしている。
　本題材は、教材として１年時にアルトリコーダーで学習した「よろこびの歌」を用いている。「よろこびの歌」は、全ての生徒が耳にしたことがある曲であるため、器楽表現に苦手意識をもつ生徒にとってもギターを演奏する喜びや楽しさを味わいながら学ぶことができる教材である。初めてギターを手にする生徒が大半であることから、授業を通してギターの奏法の基礎をおさえつつ、鑑賞等を通じて感じた「好きな音」や「心地よい音」を意識させるようにしたい。また、自分の演奏と他者の演奏を「見比べる」「聴き比べる」といったグループ活動を行うことで、「どのような工夫をすればよい音が出せるのか」「どうすれば指がスムーズに動くのか」などの意見交流を通して、自分たちで課題を発見し、生徒同士の関わり合いの中でギターの演奏技能や表現技能が高め合えるように指導していきたい。その際には、効果的にＩＣＴを活用し、個に応じた指導や形成的評価を充実させることで、指導と評価の一体化を図れるようにしていく。

（３）　学習指導要領との関連について
　本題材では、学習指導要領のＡ表現（２）器楽ア、イ(ｱ)（ｲ)、ウ(ｱ)（ｲ)を指導するものとする。

３　題材の目標
（１）　ギターの音色や響きと奏法との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付ける。　〈知識及び技能〉
（２）　音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい表現としてどのように演奏するかについて思いや意図をもつ。　〈思考力、判断力、表現力等〉
（３）　ギターの構造や奏法による音色の違いに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組むとともに、ギターの演奏に親しむ。〈学びに向かう力、人間性等〉

４　教材
「よろこびの歌」（ベートーヴェン）

５　学習指導要領の指導事項と〔共通事項〕ア・イの関連と具体的な活動

指導事項	器楽ア	器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい器楽表現を創意工夫すること

	器楽イ(ｱ)曲想と音楽の構造や曲の背景との関わりについて理解すること (ｲ)楽器の音色や響きと奏法の関わりについて理解すること 器楽ウ(ｱ)創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付けること (ｲ)創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の音などを聴きながら他者と合わせて演奏する技能を身に付けること	
〔共通事項〕	ア	音色・リズム・旋律・テクスチュア
	イ	
具体的な学習活動	・クラシックギターの基本的な奏法を習得する。 ・曲にふさわしい音色で演奏するための奏法を工夫する。	

6　題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取組態度
知ギターの音色や響きと奏法との関わりについて理解している。 技創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付けている。	思音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい表現としてどのように演奏するかについて思いや意図をもっている。	態ギターの構造や奏法による音色の違いに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。

7　指導と評価の計画　　（４時間扱い）

時	○学習内容　・学習活動	○指導上の留意点	評価規準		
			知・技	思	態
1	○クラシックギターの構造や演奏する際の姿勢 ・クラシックギターについて知る。	○楽器に興味や関心をもてるように、既習曲を取り扱う。	知		
2	○クラシックギターの基本的な奏法 ・クラシックギターの演奏技術を身に付ける。	○個別最適な学びができるよう、ＩＣＴを効果的に活用させる。	技		
3 本時	○曲にふさわしい音色で演奏する奏法 ・「よろこびの歌」にふさわしい音色で演奏するための奏法を工夫する。	○知覚と感受の関りについて考えを深めるため、ペアやグループでの話し合いの場を設ける。	知		
4	○他者と協働して演奏に取り組む姿勢 ・まとめの演奏発表や録画をする。	○発表の際、聴く視点を明確にし、工夫した場所について話し合えるようにする。		思	態

8　本時の学習指導（本時　３／４）

（１）目標

ギターの音色や響きと奏法との関わりについて理解する。〈知識〉

（２）本時の展開

	学習活動	学習内容	○指導上の留意点　◎評価　☆学び合いの視点 ★基礎基本の定着に関する視点
導入	1　前時の学習を振り返りながら演奏する。 2　学習課題を把握する。	・アポヤンド奏法	○楽譜やワークシートをもとに、前時の活動を確認させる。 ○弦の押さえ方や指の動きについて支援を行う。 ★基本姿勢や右手の奏法など、ひとつひとつの動

	課題：**曲にふさわしい音色で演奏するための奏法を身につけよう。**		作を確認しながら練習するよう促す。
展開	3　曲にふさわしい音色を目指して練習し、フレーズごとに合わせる。	・音色 「のびる音」 「はっきりした音」	○生徒の取組の様子を把握し、演奏の際に気を付けることを全体に指導する。 ○リズムが合わない時は、ゆっくり練習して技能を高めていけるように、具体的に声掛けを行う。
	4　お互いの演奏を録画し、演奏の改善点を話し合う。	・音色の変化 ・リズム ・旋律	★弦をはじく場所やはじき方によって音色が変わることを聴き取らせ、練習に取り組ませる。 ○録画に際しての注意事項をペアで共有させる。 ○他の生徒の意見や感想を参考に、自分の演奏技能の向上につなげさせる。
	5　話し合ったことを基に、もう一度練習を行う。		◎ギターの音色や響きと奏法との関わりについて理解している。（知識）〈演奏・観察〉 ☆「音楽を形づくっている要素」を意識させ、音楽的な見方・考え方を働かせながら学び合いができるように声掛けをする。 ★演奏技能や表現技能の段階に合わせた指導・支援を行う。
まとめ	6　本時のまとめと振り返りをする。 **まとめ**：**左手の押さえる場所に気をつけて強く押すと伸びてはっきりした音になる。**		○まとめを生徒の発表から引き出し、まとめを元に演奏をする。 ○よい点や改善すべき点を感じ取らせ、次時の学習について見通しを持たせる。

9　板書案

12 月 17 日　課題　曲にふさわしい音色で演奏するための奏法を身につけよう

火　曜　日　　ギター学習プリント　「よろこびの歌」

見通し

合わせ
ﾊﾟｰﾄ練
個人練
まとめ
振り返り

ペア学習の約束
・お互いの演奏を聴き合い、アドバイスする
・演奏する時間配分を均等にする

演奏のポイント
・左手の動き
・右手の動き
・のびる音

まとめ
左手の押さえる場所に気をつけて強く押すと伸びてはっきりした音になる。